

「文化部のインターハイ」出場！



飛騨民俗村・飛騨の里を見学



全体交流会にて他校の生徒と交流



分科会にて、小塩卓哉先生が直接指導



作道雄先生・中村航先生による記念講演



栃木県から出場した5名の生徒（一番左：菊池百恵さん）



那須高校タイム

8月2日から4日にかけて、第48回全国高等学校総合文化祭「清流の国ぎふ総文2024」文芸部門（短歌）に、本校の3年生である菊池百恵さんが参加しました。菊池さんは、昨年度実施された令和5年度椽文芸賞短歌部門において「夕風の生じる雨泡沫の香り漂う己の誇り」という短歌で県の最優秀賞を受賞し、今回の全国総文祭への出場権を得ました。栃木県からは宇都宮高校、宇都宮中央高校、真岡女子高校、那須高校から5名の生徒が出場しました。

全国高等学校総合文化祭は、全国の高校生による芸術文化活動の祭典で、総合開会式やパレードを含む開会行事を皮切りに、19の規定部門と3つの協賛部門に分かれて発表・展示・競技などが行われます。全国から約2万人の高校生が集い、約10万人の観覧者が訪れる、国内最大規模を誇る「文化部のインターハイ」として知られています。

今回、菊池さんが参加した文芸部門は、岐阜県飛騨市が会場となりました。

初日には開会式と文化研修（文学散歩）が行われ、映画「君の名は。」の聖地巡礼や、文学ゆかりの地、観光地を巡り、飛騨の文化や風土に触れました。

2日目の午前中は、全体交流会として運営生徒が企画した飛騨に関連するクロスワードゲームなどが行われました。午後には、

部門別交流会・分科会があり、歌人の小塩卓哉先生のご指導のもと、前日に考えた短歌作品をグループで発表しました。最終的に参加生徒が最優秀作品を選び、ワークショップを通じて交流が深まりました。

最終日には、記念講演として小説家の中村航先生、脚本家・映画監督の作道雄先生による「小説を書くこと・読むこと」と題した講演が行われ、第一線で活躍されている方のお話が聴ける貴重な時間となりました。

菊池さんは、今回の総文祭について「初めて訪れた飛騨市古川は、那須と同じく自然が豊かで過ごしやすい印象でした」と語っていました。また、全体交流会では、「学校や部門を越えて協力し合う場面がとても刺激的で印象深かった」とのことです。さらに、県内外の高校生との交流を通じて「これまで以上に短歌や文芸の楽しさ、素晴らしさを感じ、今後も創作活動を楽しみたい」と感想を述べていました。

全国から集まった他校生との交流を糧にし、今後もその感性を磨き、さらなる飛躍を期待しています。

（コーディネーター 佐藤達夫）

栃木県立那須高等学校

那須町大字寺子乙3932-48 TEL / 0287(72)0075

tochigi-edu.ed.jp/nasu

「那須高校タイム」は生徒会の生徒と高校魅力化コーディネーターが共に作るページです

〔菊池百恵さんの短歌2作品〕

～夕風の生じるは雨泡沫の香り漂う己の誇り～

～毎年の夏に過ごすは曇天の静かな風は梅雨の中に～